

【成分】

1錠中、リン酸ジメモルファン 10mg

【適応と用法】

次の疾患に伴う鎮咳

(a)上気道炎,肺炎,急性気管支炎

(b)(散・錠)肺結核,ケイ肺及びケイ肺結核,肺がん,慢性気管支炎

リン酸ジメモルファンとして1回10~20 mg(14~8歳10 mg),1日3回(増減)。(シロップ)1日14~7歳30~35 mg,6~4歳20~27.5 mg,3~2歳12.5~20 mg,2歳未満7.5~11.25 mg,3回に分服(増減)

【注意事項】

(1)慎重投与

(a)糖尿病又はその疑いのある患者〔耐糖能に軽度の変化を来すことがある〕

(b)薬物過敏症の患者

(5)適用上の注意(シロップ) 調製時

(a)プロチンコデインシロップとの配合を避ける〔配合すると沈殿を析出する〕

(b)エリスロマイシンのドライシロップ又はジョサマイシンシロップと配合すると苦くなるが,抗生物質の力価低下などの本質的な変化は認められない

(6)室温・(シロップ)遮光保存

(7)規制等:散劇指,リン酸ジメモルファン局

【副作用】

(2)副作用:(散・錠)承認時及び承認後の全調査症例5,594例中,本剤との関連が疑われる副作用発現症例数は,481例(8.6%)であった。そのうち主なものは,食欲不振,口渇,悪心,眠気,めまい等であった。なお,糖代謝に関する検索において,糖尿病の合併症を持つ症例の一部及び投与前のブドウ糖負荷試験の判定で境界型を示した症例の一部に,本剤投与後のブドウ糖負荷試験で時間的推移の傾向性から逸脱した高値が見られる例があった。(シロップ)承認時及び承認後の全調査症例2,328例中,本剤との関連が疑われる副作用発現症例数は43例(1.8%)であった。そのうち主なものは,下痢,食欲不振等であった

その他の副作用

0.1~5%未満 0.1%未満 頻度不明

過敏症(注) 発疹等

精神神経系 めまい,眠気,頭痛,頭重 脱力感,倦怠感

消化器 口渇,食欲不振,悪心,嘔吐,下痢等

循環器 頻脈,動悸,顔面潮紅

(注)このような症状が現れた場合には中止する

(3)高齢者への投与:高齢者では減量するなど注意する〔一般に高齢者では生理機能が低下している〕

(4)妊婦,産婦,授乳婦等への投与:妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には,治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にだけ投与する〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない〕

【長期】

【備考】